

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101003		
法人名	NPO(特定非営利活動法人) まごころサービス松江センター		
事業所名	グループホームまごころの家・さいか		
所在地	島根県松江市古志原5-13-69		
自己評価作成日	平成24年2月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.katgokounyuu.jp/katgostp/informationpublic.do?JGD=3270101003&amp;SCD=320&amp;PCD=32">http://www.katgokounyuu.jp/katgostp/informationpublic.do?JGD=3270101003&amp;SCD=320&amp;PCD=32</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成24年2月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

平成23年2月27日に6年間慣れ親しんだ雑賀町を離れ、古志原5丁目到新築移転しました。新たな地での生活がスタートし、1年が経とうとしています。町内会のご理解を得て、地域住民の一員として町内会に加入させて頂き、町内会の活動にも積極的に参加させて頂いております。また、開かれたホームをめざし、運営推進会議では地域の方のご参加も頂いております。ホームでの行事にもご近所の方をお誘いし、花火大会やお菓子作りなどご参加頂きました。ご利用者も、1年9ヶ月入れ替わりがなく、日々安心・安楽に過ごして頂けるよう、支援に努めております。食事は三食手作りで、ご利用者にも包丁を持って頂き職員と一緒に食事作りをし、楽しい雰囲気の中毎食ご利用者と職員一緒に同じ食事を頂いております。また、外出支援にも力を入れており、食材の買出しやドライブを日課に、年数回ご利用者全員での外出も行い、ご利用者の希望に沿うよう努めております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

新築移転後、環境が変わった事で利用者の不安、混乱に対して、行動を見守り、利用者寄り添い日々の様子を細かく把握し、職員間で統一したケアを行いながら事故の無いように一年間支援してきた。町内会長の協力を得て、総会で町内の方々に事業所の情報や利用者の状況を伝え理解を深めてもらいながら町内会に加入した。町内の草とりや事業所行事のどら焼き作りや夕涼み会、畑で出来た野菜を持って行く等、「地域に開かれたホーム」を目指し交流に努めている。今年度は自己評価を全職員で話し合い、日々の実践状況を確認しながら作成を行った。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念のもと、事業所独自の理念を作り、職員会議等で都度「理念に基づいたケアを行う」という視点で確認し合い、ケアに活かしている。	職員会議や申し送り時に、利用者の具体的なケアの方向性を理念に基づいて話し合い支援している。利用者の出来ることを奪わないように、利用者が役割を持って過ごせるように、を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として町内会に加入している。花火大会やお菓子作りなどホームの行事に、ご近所の方にもお誘いし参加して頂いた。又、ホームで出来た野菜をご近所へ持って行き喜んで頂いた。	移転して約1年、町内会長の協力もあり、町内や事業所の行事を通して交流を図っている。夕涼み会では事業所の前で「てばたん花火大会」を行い近所の子供達も参加して交流を行った。	これまでの実績をもとに、新たに地域との関係を築いていかれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、ホームでの認知症ケアの取り組みを報告し、意見交換や情報交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方2名推進員になって頂き、2ヶ月に1回の会議に参加して頂いている。ホームでの取り組みを報告する中で、貴重なご意見を頂き職員間で共有しケアに活かしている。	事業所の取り組みや利用者の状況の報告を行い、議題に合わせ活発な意見交換を行い運営に反映させている。介護技術のDVDを見るなど内容を工夫している。	会議内容を全家族に伝える工夫を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に、運営推進会議の場で報告、相談をさせて貰っている。又、問題が生じた時など、市の介護保険課に相談させて貰っている。	運営推進会議で情報交換をしたり、成年後継制度について相談し助言を貰うなど、随時協力関係を築きながら取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修を受け職員会議で報告し、話し合いを行っている。日中は玄関の施錠をせず、帰宅願望を訴えられるご利用者の対応としては、思いを抑制せずに受け入れ、外出等を行い支援している。	新人研修や実践者研修で学んだことを職員会議で話し合い共有している。荷物をまとめて出かける利用者にも訴えを理解し寄り添い支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受け職員会議で報告し、話し合いを行っている。一人一人の人格を尊重し、常に敬意を持った言葉遣いや態度を意識し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政に相談しながら、ご家族と成年後見制度について話し合い、活用出来る様に支援を行った。又、これを機に職員間で成年後見制度について、学ぶ機会を持った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前から、ご本人とご家族にお会いする機会を出来るだけ多く持つ様にし、又ホームにも可能な限り来て頂く機会を持っている。又、契約に関しても話し合いを多く持ち、納得して頂ける様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の言動からその思いを察し、ご利用者本意の運営を心掛け、又ご家族の面会時やカンファレンス時には意見、要望をお聞きし運営に反映させている。又、ご家族にも行事の参加を促し、参加して頂いている。	日々利用者の思いを聞いたり、家族からは面会時やカンファレンス、遠方の家族には毎月担当者が手紙で情報を伝え電話で意見を聞いている。意見はすぐに反映させ、「出来る事はさせて欲しい」との要望には家族の協力を得て一輪挿しを作る支援をした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員が気軽に気づきや意見、提案が出来る様に、コミュニケーションを図っている。提案された意見は、管理者会議等に図り可能な限り反映させている。	管理者と職員は話しやすい関係が出来ている。職員の意見を取り入れて他事業所と交流したり、ある利用者のトイレトペーパーに対する思いを管理者に相談して穏やかに過ごせるようにケアを統一するなど、意見を実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して報告を受け、常時話し合いを行っている。毎月管理者会議を行い、職場環境・条件の整備等についても、話し合いを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を通して都度報告を受けたり、毎月職員会議に参加し、又各週で昼食を一緒に食べる事で、職員一人一人のケアの実際と力量を把握している。外部研修にも、積極的に参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの行事に参加したり、施設見学や実習を積極的に受け入れ、気づきを頂いたり情報交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前から、ご本人と出来るだけ多くのスタッフがお会いし、状態を把握した上で話し合い意思統一を図っている。サービス利用後も都度カンファレンスを行い、ご本人が安心して過ごして頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的にかンファレンスを行い、そこでご家族の要望等お聞きし、ケアに活かしている。毎月、ご家族へ1ヶ月のご様子をお手紙にし報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態、ご家族の要望等お聞きした上で、時に訪問看護師に相談したり、場合によっては介護福祉用具業者とも相談したりし、ご本人にとって安心・安楽に過ごして頂ける支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の出来る事を把握した上で、その時のご利用者の状態に応じてご利用者の思いを尊重し、ご利用者が快く持っている力を発揮して頂ける様な支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族へご本人のご様子を密に報告し、信頼関係を築いて行ける様に努めている。外出を希望されるご利用者には、定期的に自宅等の外出をご家族にして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者一人一人の思いを聞きながらご家族と相談し、自宅や生家へ行ったり、電話や手紙を利用して遠方のご家族や馴染みの人との関係作りの支援をしている。	家族の協力で自宅に帰り本家の人と話をしたり、親戚や入居前に暮らしていた近所の友達の来訪があった時は居室でゆっくり話をしてもらっている。年賀状や手紙の代筆をし関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者のその時の状態を把握し、孤立しない様配慮したり、ご利用者同士と一緒に作業出来る様に工夫したり、ご利用者一人一人を常に観察し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1年10ヶ月、ご利用者の入れ替わりがない状況ですが、サービス利用が終了してもこれまでの関係性を大切に、相談や支援に努めて行きたいと思います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを尊重し、居室あるいは居間など居たい所で過ごしてもらい、レクや体操も無理には誘わない。個別の関わりを持ちながら思い、心情を汲み取る。	家族に生活暦を聞き利用者が好む話題で話し思いを引き出している。水を容器に保存する習慣のあった利用者には、朝・夕に交換の支援をするなど、一人ひとりの思いを大切に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時、今迄の生活暦や周辺状況等、新しい情報も収集して共有している。又、馴染みの道具や、写真なども自室に持ち込んでもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況、身体状況の記録により把握、又、申し送りにより、新しい情報を共有することで、一人一人の能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別のケアプランチェック表を毎日チェックし、より良い生活が送られているかモニタリングすると共に、ご家族、スタッフ参加のカンファレンスで双方からの意見を出し合い、プランに生かしている。	遠方の家族は面会時に合わせカンファレンスを実施している。担当者が日々の利用者の把握に努めている。家族からの意見をプランに反映させていて、「転倒しないようにしてほしい」との意見には、手引き歩行等のケア内容の実践に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事摂取量、排泄、服薬等記録し、日々の暮らしの経過記録、連絡ノートを活用等により、的確な情報を共有している。状況の変化は、介護計画の変更に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅へ帰りたい思いがある方には、自宅への外出支援、誕生祝いのご家族と共にお祝いする。入院時は、頻回に面会し病院側と話し合いの上、できる介助を提供したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	陶芸教室や民謡クラブなど、ボランティアの方の協力を得て、楽しい時間を持っている。又、運営推進会議に地域の方も参加して頂き、ホームでの生活の様子も見て貰い気付いたこと等教えて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医、あるいはご家族希望のかかりつけ医と連絡、報告を行い常に連携をとり、必要時には受診支援も行っている。又、救急時、かかりつけ医に総合病院の紹介も得ている。	一人ひとりの日々の状況を協力医と訪問看護師に報告して、状態を共有している。協力医には緊急時いつでも相談が出来、病状に合わせて指示を受け総合病院に職員が受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約。週一回訪問時、一人一人の状況を報告し、不安な面、異常については詳しく報告、指示を得ている。24時間オンコール体制で緊急時も連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、職員が出来るだけ頻回に面会に行き、情報を得たり、ご本人にとっても馴染みの顔が見えることで、安心感を持ってもらい、早期退院が出来る様、病院内での支援も努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を策定し、ご家族等と話し合いの場を持ち、双方で出来る事の確認、方針の確認をしている。必要性が生じた場合は、ご家族、協力医、訪問看護師等と共に話し合い、方針を共有している。	現在事例があり、職員の看取りに対する思い・意識を聞きながら、病状の理解を深める勉強会を行い、出来る事の支援の確認をした。主治医、訪問看護師、家族等と話し合い、方針の確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は、職員が消防本部にて応急手当普及員の講習を受け、運営推進会議にて職員は勿論、ご家族、地域の方も交えて応急手当講習を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の基、消防訓練を行い、避難訓練等を行った。地震、水害等の災害時の対応と地域との協力体制の構築を具体的に検討して行きたい。	消防職員に事業所内の状況を見てもらい避難訓練を行った。誘導時には居室のドアを閉める、建物から外に避難する、等の助言を得た。通報の仕方や消火器の場所の再確認、拡声器で近所に知らせる等、対応を振り返る事も行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、常に敬意を持った言葉遣いや態度を意識し対応している。部屋の入り口には、カーテンを取り付けプライバシーの保護に留意している。	利用者の気持を大切に考えて支援に努めている。言葉遣いや態度についてはその都度全職員で問題提起をして話し合っている。浴室、トイレ等には一人ひとりの持ち物が用意され、その人に合わせた支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや希望を日常的に把握できる様な声掛け、関わりを心掛け、表出された気持ちを優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れは決められているが、それにとらわれずその日の皆様の状況を把握し、臨機応変に取り入れ、穏やかな気持ちで過ごして頂ける事を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節毎にその人らしい衣類を、ご家族あるいは、職員が準備している。2ヶ月に1回訪問理美容車の利用で、個々に合ったヘアスタイルをお願いしたり、メイクボランティアの訪問でおしゃれを楽しんでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出し、調理の下ごしらえ、盛り付けなど、出来るところを共に行い、好き嫌いのある方には、代替りの材料を用意し、又職員も共に食卓を囲み、楽しい雰囲気の中食事時間を過ごしている。	理念にもある「三度の食事をおいしく食べてもらう」ため、食べられない食材は、食べられる食材に変え、食材等の話題で笑顔のある食事場面になっている。畑で出来たゴーヤで佃煮等を一緒に作ったり、下膳、食器洗いなど出来ることはやってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については毎食、飲水については必要が生じた状態により、記録をとりバランス良く栄養が摂れる様チェックしている。摂取状況により、形態、量、食材の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、義歯磨き、夜間は義歯洗浄剤に浸ける。口腔内の不具合があると思われる時は、早目に歯科医に相談し、必要時は往診して貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	見守りの必要な方は、その方の様子や時間を見ながらトイレ誘導を行い記録している。全介助の方もトイレで排尿、排便の介助を行い、パットを濡らさない、汚さないケアに努めている。	日々の一覧表に一人ひとりの状況の記録をする事で把握に努めている。二人介助の利用者も日中トイレで排泄を行う事で生活リハビリに繋がったり、一人ひとりにあったパットが全てのトイレにセットしており、細やかに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、飲むヨーグルトを飲んで頂き、又バランスの良い食事を心掛けている。一人一人の様子を観察しながら、水分補給、腹部マッサージを行い、腸の動きを良くして、スムーズな排便に繋げる様支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2日を目安に、ご本人の希望とその時の状況によって入浴している。脱衣室、浴室の温度管理に十分気を付けている。時には、職員と一緒に温泉へ行ったり、ご家族と温泉に行かれる方もいらっしゃる。	個人に合わせ洗面器・シャンプー・石鹸が置かれ、安心して入浴出来るように統一した支援をしている。浴槽は浅く花柄の滑り止めマットや手すりの工夫をしている。入浴を拒む利用者には、職員も一緒に近くの温泉に入る支援にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度管理や、シーツをこまめに洗濯し、気持ち良く休んで頂けるようにしている。一人一人の体調を観察しながら、日中の活動を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤情報をファイルして、職員がいつでも見られる様になっている。ご利用者の状態を常に観察して、症状の変化を見逃さない様に職員全員で情報を共有し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一般的な家事活動を中心に、個々の生活歴に合わせた支援(畑仕事、木工作业、裁縫、写経など)をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に行ったり、外出希望がある時は、ドライブに行くなど速やかに対応している。その日の状況(天気、催し物)に応じた外出支援も行っている。年に2,3回のお花見や、職員と一緒に衣類、家具(タンス)など買い物に行く機会も作り支援している。	天気が良い日には、ひなたぼっこ、買い物、ドライブ、畑での野菜の世話や収穫等をしている。計画的に「天神バザー」に参加している利用者や、電車に揺られて「フォーゲルパーク」に行き電車の旅を楽しむ等、積極的に外出の支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金をお預りし、事業所で管理している。ハンドバックに財布を入れてご自分で管理されている方もおられる。又、外出時には欲しい物(お菓子、お土産など)をご自分で購入してもらう様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望によっては、年賀状を代筆している。希望があれば、いつでも電話をかけてもらったり、電話での会話が難しい時は、職員が間に入って対応したりし、状況に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事の飾り付けや、ご利用者の作品、写真を飾って安らぎと楽しみのある雰囲気作り心掛けています。また、オープンな台所でいつでもどなたでも入って来られる様にしており、ご自分で自分の食器を洗われる方もいらっしゃる。	季節の花や、ボランティアの協力を得て利用者が1針1針縫ったタペストリーやちぎり絵が飾ってある。利用者に合わせて高さ調節が出来るテーブル・洗面台や、トイレ使用時、前かがみになっても腹部の圧迫を防ぐ工夫がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々でテーブルを動かし、お独りの空間を作ったり、ご利用者同士で会話を楽しんだり出来る空間作りに努めている。又、ご自分のお好きなソファに座って寛いだり、台所を好まれる方もいらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼット以外は、ご自分のタンスやソファを置いたり、写真やご本人の作品を飾ったりしている。又、ご家族を交えて、ご本人と居心地の良い居室作りをしておられる方もいらっしゃる。	行事や家族の写真が貼ってあったり、昔の仕事で関わった時の上棟記念品が置かれたり、利用者の病状に合わせ加湿器を置く等、その人らしい居心地のよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所など、ご自分の物がすぐに分かる様に名前を書いて置いてある。必要な箇所に手すりをつけて、安全な歩行が保たれる様に工夫している。		